

大会名 Competition	第65回秋田県高等学校総合体育大会 バスケットボール競技
NO. M-4	Year Month Day Time 2019 年 6 月 4 日 13 : 30
場 所 Place	横手市増田体育館



秋田県高等学校体育連盟  
バスケットボール専門部

チームA		チームB										
能代工	<table border="1"> <tr><td>25 1st</td><td>19</td></tr> <tr><td>30 2nd</td><td>13</td></tr> <tr><td>30 3rd</td><td>17</td></tr> <tr><td>25 4th</td><td>30</td></tr> <tr><td>OT</td><td></td></tr> </table>	25 1st	19	30 2nd	13	30 3rd	17	25 4th	30	OT		平成
25 1st	19											
30 2nd	13											
30 3rd	17											
25 4th	30											
OT												
110 ○		79 ●										

Crew Chief 佐藤 匠  
Umpire 1 水木 順仁  
Umpire 2 田村 高光  
テーブルオフィシャル: Table officials  
横手高校男子バスケットボール部

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
4	×	須藤 陸	CAP	20	5	2	1	0	4		柴田 吏輝	CAP	-	-	-	-	-
5	/	栗屋 颯太		5	0	2	1	0	5	×	岸 龍聖		16	3	2	3	0
6	×	森山 陽向		8	0	4	0	2	6	×	石川 政稀		7	0	3	1	3
7	×	秋元 淳之介		17	1	5	4	2	7	×	阿倍 凌太郎		24	3	7	1	2
8	×	伊東 翼		8	1	2	1	0	8	×	鎌田 凜		19	2	4	5	3
9	/	上村 悠真		18	5	1	1	3	9	/	戸田 翔也		0	0	0	0	1
10	/	上村 大佐		2	0	1	0	1	10	/	川村 歩夢		8	0	4	0	3
11	×	佐々木 駿汰		2	0	1	0	1	11	×	金沢 那智		5	1	0	2	0
12	/	中山 裕己		8	2	1	0	2	12		鏡 樹		-	-	-	-	-
13	/	高橋 裕心		0	0	0	0	1	13	/	伊藤 魁		0	0	0	0	0
14	/	小形 佳史		0	0	0	0	1	14		鈴木 凜		-	-	-	-	-
15	/	成澤 頼		18	0	9	0	0	15		吉田 柊		-	-	-	-	-
16	/	大石 隼		0	0	0	0	3	16		佐野 瑠夏		-	-	-	-	-
17		伊藤 誠馬		-	-	-	-	-	17		日景 悠人		-	-	-	-	-
18	/	中嶋 正堯		2	0	1	0	0	18		斉藤 翼		-	-	-	-	-
19		秋葉 泰輝		-	-	-	-	-	19		秋元 琉世生		-	-	-	-	-
20	/	木村 胡伯		2	0	1	0	0	20		阿部 翔		-	-	-	-	-
21	/	大日向 恵牙		0	0	0	0	0	21		沓沢 悠真		-	-	-	-	-
コーチ		小野 秀二							コーチ		伊藤 泰						
Aコーチ		山田 尚光							Aコーチ		畠山 太一						
合 計				110	14	30	8	16	合 計				79	9	20	12	12

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3P\* イントシュート 2P:2P\* イントシュート FT:フリースロー F:ファウル

男子決勝は、3年連続55回目の優勝を狙う能代工と、3年ぶり2度目の優勝を目指す平成の対戦となった。  
第1クォーター、両チームともマンツーマンディフェンスでゲームが始まる。平成が#6石川のドライブで先制すると、能代工は#6森山がミドルシュートをすぐさま決める。能代工は#7秋元を軸にオフェンスを展開し、ドライブや合わせのプレーが決まり、残り4分30秒で16-6とリードを広げる。能代工に流れが傾きかけたが、平成はリバウンドから得意の速い展開に持ち込み、#8鎌田の個人技や#10川村のゴール下などで加点して点差を詰める。平成は終了間際に#8鎌田が3Pシュートを決めるが、25-19と能代工が6点リードして第1クォーター終了。  
第2クォーター、能代工はローポストを起点にオフェンスを展開し、ディフェンスを引きつけてからの合わせのプレーで加点し、開始2分で32-21とリードを広げる。一方の平成は、#10川村がペイントエリアで気迫のこもったプレーをみせ、ピックプレーやタップシュートなどで34-28と6点差まで迫る。主導権を渡したくない能代工は、#4須藤や#9上村悠が立て続けに3Pシュートを沈め、残り2分50秒で45-28と差を広げ、平成が最初のタイムアウト。平成は#5岸のドライブや#8鎌田のタップシュートで加点するもオフェンスのミスが目立ち、終盤は能代工が主導権を握り、55-32と能代工がリードし前半を折り返す。  
第3クォーター、両チームとも3Pが連続して決まり点の取り合いとなったが、後半は能代工が3Pシュートを高確率で決め、徐々に点差が広がっていく。巻き返したい平成だが、能代工のディフェンスを崩せずターンオーバーを繰り返し、苦しい時間が続く。このクォーターで能代工は6本の3Pシュートを決め、85-49と大きく差を広げて最終クォーターを迎える。  
第4クォーター、平成は#7阿倍や#10川村のミドルで加点し、ディフェンスでもプレッシャーを強めて必死に食らいつく。しかし、能代工のディフェンスを攻めあぐね、1対1中心の苦しい攻撃が続く。それでもあきらめない平成は、全員がボールを追いかけ、残り3分をきったところでさらにギアを上げ、オールコートディフェンスからペースを掴む。#8鎌田のドライブ、#7阿倍の3Pシュートなどで連続得点を決めて意地を見せるが、110-79でタイムアップ。ゲームを通して激しいディフェンスとバランスの良いオフェンスを持続させた能代工が55回目の優勝を果たし、3年連続のインターハイ出場を決めた。